

裏面白紙

宗
丙
大正三年三月十八日

官報報告

立案 大正三年二月十九日
決裁 大正 年 月 日

宗族寮總裁

宗族寮主事

記入濟

大臣
承知

次官

岡 千 仞 特 旨 叙 位 一 件

同
覽
三年二月廿日

七
五
二
七

四

宮 内 省

大正三年二月十九日
臺帳記入二月十九日官報報告濟

(二大)

丙 大正三年二月十八日

大正三年二月十八日
宗秩寮當直

宗秩寮當直



當番書記官
大叙

案

特旨ヲ以テ位記ヲ賜フ

岡 千仞

叙從五位

岡 千仞

宮内省

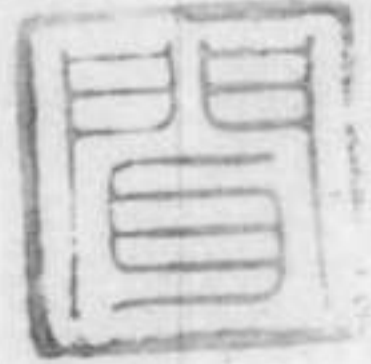
右之通本日宣下相成候條此旨及傳達
候位記並辭令ハ明日可及回送候也

大正三年二月十八日

宗秩寮總裁

從五位岡千仞

(二六)



岡千仞特旨叙位ノ件

右謹テ奏ス

大正三年二月十八日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛公

内

閣

裏面白紙

大正三年二月十八日

内閣書記官

本

二月十八日可

内閣總理大臣

内閣書記官長

岡千仞ハ別冊申立ノ通功績顯著ノ者

ニ付特旨叙位ノ件上奏相成然ルヘシ

岡千仞

特旨ヲ以テ位記ヲ賜フ

岡千仞

叙従五位

岡千仞ハ別紙履歷書記載ノ如キ事蹟有之
尚維新後東京ニ私塾ヲ開キ子弟ノ教養
ニ努力シ門下ヨリ有為ノ人才輩出シ教育
上功績アリタルモノニ有之候處目下病氣危
篤ニ付相當敘位ノ儀御詮議相成度候
大正三年二月

男爵齋藤 實効
男爵高橋 是清 兼
法學博士 奥田 義人

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

履歷書

宮城縣士族

東京府荏原郡大崎町字大崎二百三番地居住

岡 千 仞

天保四年正月十二日生

一、仙臺藩士岡藏治韜齋ノ四男ナリ幼ニシテ學
 志シ嘉永六年正月江戸聖堂ニ入寮前後在
 學十ヶ年ニ及ヒ佐藤一齋安積良齋兩先生ヲ師
 トシ當時同學名聲アルノ士ハ重野成齋水本
 安太郎南摩羽峰松本奎堂松林飯山秋月悌二
 郎等トス後年聖堂詩大掛トナリ次テ舍長ト
 ナル

一、萬延元年千仞京攝ノ間ニ遊ヒ三河ノ松本奎
 堂肥前ノ松林飯山ト共ニ大阪ニ関塾時人之ヲ
 双松岡塾ト稱シ名聲噴々タリ當時時勢愈々
 窘迫京攝ノ間物論囂然人心恟々タリ千仞米
 艦渡來以前ヨリ昌平黌ニアリ泛々各藩志士
 ト往來大義名分ヲ明ニシ王政ヲ復興ニ國論
 ヲ統一スルハ當今ノ急務タルヲ主張セルヲ
 以テ茲ニ至リ水戸薩長名士ハ勿論清川八郎
 本間精一等並ニ同學ノ舊友ト日夜奔走備ニ
 之ヲ本藩宰臣ニ具狀セリ尋イテ本藩周旋方
 ヲ命セラル是ニ於テ朝野諸藩ノ間ニ周旋ス
 此時本藩ヨリ天機伺候ノ夕ノ宿老遠藤文七

(大内製)

郎上京藩主慶邦ノ微誠ヲ天聽ニ達スルハ悉ク千俣ノ建白ニ出テシモノナリ

一、千俣京振ヨリ山陰地方ヲ遍歴シ鳥取ヲ過ク此行實ハ因藩宰安達辰三郎其子清風ト相謀リ避暑ニ托シ千俣ヲ招キシニ因ル當時因藩人才空乏大ニ學校ヲ興シ人才ヲ養成スルノ企アリ即チ千俣ヲ招致シ祿八百石ヲ給シ此任ニ膺ラシムルノ意アリ清風等慇懃大ニ勤メシモ千俣ニ君ニ事フルノ意志ナキヲ以テ固辭シテ聽カサリキ

一、朝議島津久光ニ命シ大原卿ヲ奉シ東下ト決ス勅命凡ソ三項其一ハ一橋後見春嶽總裁幕

府ノ大改革ヲ断行此時千俣京師ニ在リ思ラク勅命三項幕府奉命ト否トハ未タ知ルヘカラス若シ奉命セサレハ天下大乱況ニヤ歐米諸國前虎後狼而テ勅旨三項中尊攘ハ實ニ主眼ナリ然ルニ我カ仙臺藩ハ海内ノ大藩タルモ尊攘ノ大義関鎖ノ利害殆ント五里霧中ニアリ何ノ面目アツテ聖旨ニ對セント因ニ断然急速歸藩シ藩論ノ歸向ヲ策スルニ一決シ岩倉大原綾小路三卿ニ進謁シ深ク時事要務ニ就キ談合スル所アリタリ當時因州侯參勤ヲ終リ歸途京ヲ過ク大原卿ノ謀ニ基キ内勅ヲ大阪因州邸ニ遣シタルニ歸國ノ上奉答可

(大内製)

任トテ發邸セリ千俣因州藩ニ知己多キヲ以テ三卿合議ノ上千俣ヲシテ内勅ヲ奉シ因州藩ニ使セシメントス千俣慨然トシテ將サニ發セントス偶々異議ヲ唱フルモノアリ曰ク戊午水戸内勅一敗大獄、起ルニ至ル畢竟諸藩浮浪書生ヲ重用スルニ由ル云々事遂ニ行ハレス

一、文久三年千俣藩命ニヨリ仙臺ニ歸ル奥羽僻遠大義名分ヲ解スルモノ寥寥晨星ノ如ク加フルニ門閥執政多ク諤々ノ議論ヲ憚リ千俣ヲ視ル浮浪書生ノ如ク其論スル所多クハ藩學ノ俗論ト背馳スルヲ以テ敢テ擧用セラレ

ス是ニ於テ千俣徒弟ヲ集メ專ラ授業ト著述ニ從事セリ慶應二年藩學教授ヲ命セラル然レトモ從來ノ學制ヲ一變セサレハ到底人才養成ノ途ナキヲ以テ屢々藩宰但木土佐ニ進言シ且ツ藩學ニテ等閑ニ付シタル三席（一家准一家一族ニシテ所謂四十八館邑主ノ總稱ナリ）子弟教育ノ方法ヲ立ツルノ急務タルヲ切論シタリ尋テ君側侍講ヲ命セラレ此ニ至テ藩學外ニ別ニ獨立ノ一學校ヲ開キ專ラ三席子弟ヲ教育シ國體ヲ知り名分ヲ重ンジ心ヲ時事ニ用ヒ有用ノ人才ヲ養成スヲ期シ僅々半歳ナラス殿中ニ於テ諸生ノ業ヲ

（大内製）

試ミシニ大ニ藩主ノ歎賞スル所トナレリ若
シ之ヲシテ數年前ニ在ラシメ千俣ノ所論ヲ
家國ニ施行セシナラハ幕末維新ノ際大ニ有
可觀者然ルニ開校未タ一歳ナラサルニ王政
復古ノ大命下ル奥羽ハ偏陋上國ノ大勢ニ暗
ク概シテ佐幕説ヲ唱フルヲ以テ千俣ハ面敵
ヲ受ケテ日夜議論聲色ヲ勵マシ音聲ヲ啜ラシ
之ニ繼クニ涕泣ヲ以テスルニ至ル此時参政
三好監物兵ヲ率ヒ上京スルノ擧アリ實ハ千
俣同志石澤俊平遠藤温ト百方勸説シタルニ
由ル

奥羽諸藩目ヲ仙臺藩ニ屬シ向背ヲ定ム千俣

固ヨリ文名アルヲ以テ東北諸藩ノ有志書生
皆千俣ヲ來訪千俣天下ノ爲メ勤王義擧ノ唱
主ヲ以テ自ラ居リ執政命ヲ下シ他藩人ニ出
會スルヲ禁ス門側ニ候者ヲ置クニ至ル千俣
以テ意トナサス死ヲ以テ事ニ殉フヲ期シ日夜
執政参政ヲ見テ剴切極論セリ

奥羽鎮撫使九條卿軍艦ニ割シ松島灣ニ著ス
藩主即チ三好參政千俣及遠藤温ニ命シ松島
ニ出迎セシム士氣大ニ振ヒ藩論爲メニ一定
シ會津討伐ヲ沮ムモノハ除籍タル可シトノ
嚴命ヲ下スニ至レリ次テ鎮撫使ハ參謀大山
格之助同世良修藏ヲシテ千俣ニ命ヲ傳ヘ長

藩高津慎一ト共ニ羽越諸藩ノ情勢ヲ偵察遊
 説セシム日夜奔走逐一諸藩ノ情勢ヲ報告セ
 リ
 藩主軍ヲ率ヒ進シテ白石ニ陣シ會米ニ藩ト
 密議シ罪ヲ鎮撫使ニ謝シ議若シ容レラレサ
 レハ奥羽諸藩ト連盟舉兵ノ内謀アリ事態日
 ニ急寔危機一髮ノ間ニアリ千俣之ヲ聞キ蹶
 然急行白石本營ニ至リ諫争ニ晝夜執政但木
 土佐辞屈ス即チ藩主面前ニ於テ是非ヲ論セ
 ンコトヲ泣請スレトモ壅蔽遂ニ其意ヲ通セ
 ス
 執政千俣カ物議ヲ動カシ會盟ヲ妨クルヲ惡
 ミ之ヲ遠ケニカ為メ沿海諸藩及水戸ノ藩論
 偵察方ヲ命ス千俣軍命辞スヘカラス福島軍
 事局ヲ發シ相馬平泉湯長屋藩セヲ見テ佐幕
 賊論ヲ剴切論破水戸ヨリ歸途棚倉ニ至リ初
 メテ世良參謀ノ暗殺ト奥羽列藩白石ニ會同
 シ官軍ニ抗敵スルヲ盟フト聞キ慨嘆悲憤以
 為ラク我國ヨリ天下ノ為メ勤王ノ大義ヲ唱
 フ區々一藩ノ為メニスルニアラス即チ断然
 脱藩東山道鎮撫使伊知地參謀ニ就キ王事ニ
 盡クサントス會々藩醫某徐庶方寸乱ノ故事
 ヲ引キ老母ヲ歸養他日力ヲ反正歸順ニ致セ
 ハ忠孝兩全ノ忠告ニ感動歸郷ニ決シ次テ福

(天內製)

島軍事局ニ復命スルヤ激徒刺殺ヲ謀ルニ三
執政、蔽護ヲ以テ免カル

千仞既ニ仙臺ニ帰ル同志ト聲息ヲ通シ日夜
反正帰順ノ途ヲ講ス此時敗報四達國事日ニ
急賊臣即チ三好參政千仞ヲ指目シ排擠ヲ謀
ラントス千仞老母ヲ擁シ本吉郡入谷村門生
山内某方ニ遁ル密ニ公族涌谷邑主伊達安藝
ヲ奉レ討會ノ先鋒ヲ請ヒ實功ヲ立テ主家社
稷血食ヲ策シ其時機ヲ待ツ而シテ賊臣兵氣
ノ振ハサルヲ名トシ断然勤王論ヲ唱フルモ
ノヲ捕縛屠戮スルニ決シ勤王論者八十人ヲ
逮捕ス遠藤石澤潜匿跡跡スルヲ得ス三好參

政憤激自盡シ千仞一息猶存スレハ尚ホ國ニ
盡スヘキヲ期シ從容述ニ就キ獄ニ下ル
宇和島支藩ヨリ藩主慶邦ヲ苦諫藩論一變世
子宗敦相馬口軍門ニ降伏ス藩主父子江戸芝
増上寺ニ謹慎ヲ命セラル此時千仞遠藤温ト
世子ノ侍讀トナリ君側ニ侍ス削封命下ル世
子ニ從ヒ東下此時國內擾乱殆ント命ヲ奉ス
ルモ、ナシ佐幕黨之ヲ機トシ煽動シ榎本大
鳥等ノ率ユル幕兵ト氣脈ヲ通シ奥羽、越、大
動乱ヲ醸サントスルノ情勢顯然タリ千仞良
此間ニ處シ畫策甚タ勉ム朝廷即チ久我鎮撫
使ヲ派シ仙臺藩、執政和田織部以下八名ニ

死ヲ賜ヒ其他數十名ヲ處罰ス千俵既ニ動乱
ヲ未然ニ防キ其機ニ乘リ幼主ノ旨ヲ奉シ議
事局ヲ開キ藩政大小トナク局議ヲ以テ裁断
決然士卒ノ祿改ヲ施行シ不平二十四郡ニ充
満セルヲ再乱ニ至ラシメサルハ實ニ千俵一
代ノ大功勲トス抑大政維新一視同仁ノ新政
ヲ布カルルノ時ニ當リ仙臺藩新賜ノ二十八
万石ヲ以テ一万有餘ノ士族ヲ扶持シ三万余
ノ陪隸ニハ分毫ノ手當ニ及ハサルニ聊カ不
平動搖ノ色ナク朝旨ヲ奉體シ決裂ニ至ラ
サルハ畢竟其主君タル三席ノ門閥曾テ千俵
ノ門下トナリ薰陶ヲ受ケ日月淺シト雖モ國
體時勢ノ何物タルヲ知リ克ク反正帰順ノ實
效ヲ奏スルニ至リシハ千俵ノ終始一貫盡力
シタルノ功績ニ由ルモノト謂ハサル可ラス

一明治三年千俵徴セラレテ大學助教トナル繼
テ太政官修史局協修東京府書籍館長ニ歴任
ス同十一年病免爾來專ラ著述ニ從事シ殆ン
ト著書等身ノ概アリ其尊攘記事ヲ著ハスヤ
屢々故岩倉右府ニ謁シ其談話ヲ聞キ大ニ益
スル所アリ

一明治十七年千俵支那漫遊ノ舉アリ有栖川宮
藤井家令故熾仁親王殿下ノ旨ヲ奉シ千俵勤
王篤學ノ老學窮ナルモ寒素旅費ニ乏シカル

へキヲ憫察セラレ五百金ヲ下賜セララルルノ
 恩命ヲ傳フ然レ氏千仞恐懼固辞シテ受ケス
 千仞遂ニ清國ニ遊ヒ足跡天津燕京ヨリ長江
 一帯並ニ南清ニ及ビ鴻儒碩學ト談論往來聲
 名尙域ニ喧傳スルニ至ル

一、明治四十一年東宮殿下東北方行啓ニ際シ千
 仞多年國家ニ功勞アルヲ思召サレ特ニ内
 謁見ヲ賜ハルノ光榮ニ浴セリ
 一、千仞幼ヨリ遊歴ヲ好ミ南沖繩ヨリ北根室ヲ
 窮メ足跡海内ニ遍シ其游乗ト游記トハ歴史
 及地理學上ニ益スル所尠少ニアラサルヘシ
 一、著書目錄概略尤、如シ

尊攘記事

同 補遺

藏名山房雜著

全 詩文集

米利堅志

法蘭西志

東旋詩紀

觀光紀遊

塩松勝概

修史餘事

螢雪事業

仙臺史料

四冊

二冊

參冊

若干

二冊

二冊

四冊

參冊

二冊

五冊

五冊

參冊

(大内製)

琉球始末	貳冊
先生詩傳	貳冊
硯癖齋詩鈔	參冊
全 老稿	六冊
瑣紀續筆	五冊
蠹稿錄存	五冊
游乘抄本	十九冊
鉛筆劄記	拾冊
在臆話記	拾參冊
其他雜著詩文集	數種

大正三年二月

辱知生 河野通之識

(大内製)

相續園子何久翁傳
異世年而一趨都中
大川流立徳二翁
正常由之存下
湖山原下四極

正徳四年二月十日
正徳四年二月十日

湖山 彦下 四條 街 乙 下 直 上

下 有 小 子 可 相 看

二月十日

相 看

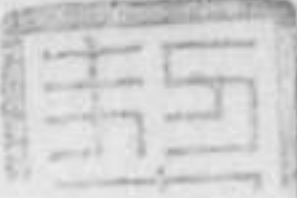
牛 塚 君

正徳四年二月十日

ト有るの事ありお春
二月十日 水

牛塚石

この仲所等もまたなまめ年々下分
大板付の月務三平流が出陣し
中より口はかき進中三平御地人
扶つた所
電の波等三平先那を
用りつるに
はたす
所
物等あり



三年二月十九日

大正三年二月十九日

別紙位記竝辭令及回送候也

大正三年二月十九日

宗秩寮總裁侯爵久我通久

從五位岡千仞

宮内省

裏面白紙